

# 経済マンスリー

## [アジア]

### 注目されるインド版『グリーン・リカバリー』

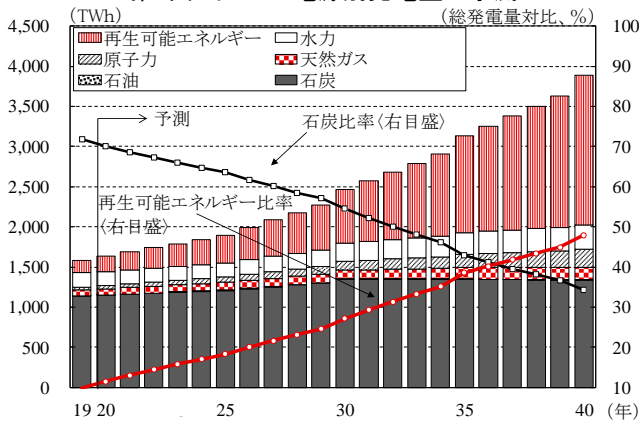
コロナ禍からの復興の鍵として、脱炭素化に向けた成長戦略を主体とする「グリーン・リカバリー」を標榜する国は少なくないが、CO2総排出量世界第3位のインドも例外ではない。

インドでは変異株の猛威もあり、5月には新型コロナウイルスの日次新規感染者数が40万人を超えるなど一時深刻な状況に陥った。その後、感染拡大はピークアウトし、行動制限の段階的緩和とともに経済活動は徐々に再開しているが、ワクチン普及が途上の中、昨年以降のコロナ禍で国内経済が大幅に悪化しており、目下その立て直しが急務となっている。

その一つが脱炭素化による投資促進であり、インドは2030年までに再生可能エネルギーの発電容量を現状の5倍の450GW（総発電量換算で約4割）に拡大する目標を立て、4月の米国主催の気候変動サミットでこれを表明している（第1図）。現在、同国の1人当たり名目GDPは中国の5分の1程度だが、経済成長に伴い1人当たりCO2排出量が増加する傾向を踏まえると、総排出量は増加を続ける可能性が高く（第2図）、世界的なグリーン化の潮流からしても取り組みは急がれるところである。しかし、エネルギー・経済・財務分析研究所(IEEFA)の試算では目標達成には2030年までに合計5,000億ドル(名目GDP比約19%)の投資が必要とされており、その呼び込みが課題となっている。インドは6月のG7サミットに招待国として参加し、先進国中心のポスト・コロナの動きに積極的に関与していく姿勢を示したが、投資を呼び込みたいインドとグリーン化社会へ向けてCO2総排出量上位国のインドの協力を取り付けたい先進国の思惑の一致もあつたものとみられる。

実現へのハードルは極めて高いが、グリーン化という世界的に最重要とされる項目を切り口にすることで先進各国からの投資を集め経済を活性化する好機といえる。また、単純なエネルギー戦略に止まらない、太陽光発電事業の産業化を始めとした中長期的な産業育成の観点からも期待される。ワクチン普及等によるコロナ禍の克服が喫緊の課題ではあるが、その後のインド版『グリーン・リカバリー』の動きにも注視が必要である。

第1図: インドの電源別発電量の予測

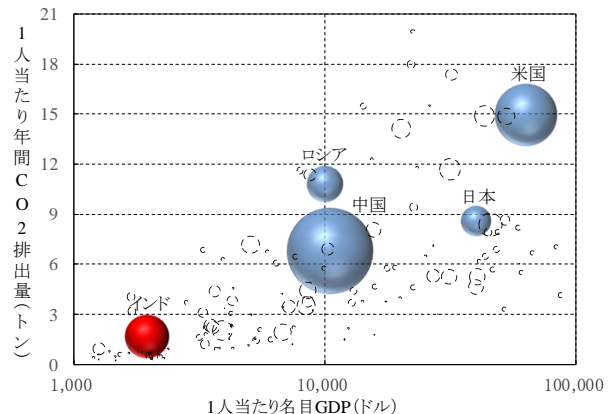


(注)1. 再生可能エネルギーは太陽光、風力、バイオ等。

2. データは政府の方針を反映してIEAが予測。数値未公表部分は線形補完。

(資料)IEAより三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図: 世界各国のCO2排出量



(注)バブルサイズは年間CO2総排出量。

(資料)IEA、IMF統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 野瀬 陽平 youhei\_nose@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。